

はじめに

平田 光司

hirata@soken.ac.jp

本レクチャー代表者

総合研究大学院大学葉山高等研究センター 教授

本書は3年連続の講義シリーズの第3回として開かれた「科学における社会リテラシー3」の講義録です。レクチャーは2005年8月1日から5日まで総研大葉山キャンパスで行われました。講義は1コマ90分で、30分の質疑応答がつきます。演習などもふくめて16コマの講義を行いました。

科学技術をめぐる情勢は、急速に変化しているように思われます。昨年には科学技術白書が科学技術の負の側面に言及しました。そして、「社会のための科学」というキーワードが盛んに使われるようになってきました。これは単純に産業のための科学を意味するわけではありませんが、実際には科学技術を産業の基礎と見て、産業に寄与する方向に科学のゆくえを誘導する施策がいろいろと行われています。基盤経費の縮小と競争的研究資金の拡充、国立大学の法人化なども、その流れの中で起きていることでしょう。本年にはサイエンス・コミュニケーションがさかんに奨励されています。これも、科学技術産業立国を進めるための宣教師の役が期待されているとも見えます。

社会が科学技術の「光と影」の影響を受けるように、科学も社会の「光と影」の影響を受けます。その中で科学者は、時には「社会から科学を守る」ために努力する必要もあるでしょう。もちろん、科学は社会と対立するものではなく、社会の中にあり、社会の一部です。科学が存在するような社会はいかにあるべきか、科学者一人ひとりが考え、行動しなければならないでしょう。「科学における社会リテラシー」は、そのような科学者、学生のための基本的な知識となるものを構想しました。もちろん、科学者だけではなく、すべての人がこの

問題を考える必要がありますが、それは「社会における科学リテラシー」の方向です。どちらも同じ問題の両面です。

本講義シリーズは、科学技術社会論学会に協力していただきました。